

New Products Review

これは買い!?
気になる新製品をいち早くテストする!



液晶モニター&メモリーカード記録では世界最小サイズ
COOLSHOT



アナログ機能も充実したDSU内蔵ターミナルアダプター
DN-TA I



スマートメディア採用の3倍AFズームのデジタルカメラ
DC-3Z



簡単に無線LANが構築できるワイヤレスLANアダプター
WNS-230W セット



デジタル携帯電話でネットサーフィンができるカーナビ
インフォメーションナビ
システム **NVX-FW8**

液晶モニター&メモリーカード記録では世界最小サイズ COOLSHOT

Check!

名刺サイズで高級感のあるアルミボディー
記録メディアとしてCFカードを採用
オプションでストロボ装着も可能

パナソニックの“New” COOLSHOT (LK-RQ1Z)は、液晶モニター搭載、メモリーカード記録では世界最小・最軽量のデジタルカメラだ。しかも、ボディー外装はアルミ合金仕上げで、手に持つとひんやりと金属の冷たさを感じられる。コンパクトというだけでなく、十分な質感も備えたデジタルカメラだ。

サイズを変えずにCFカード記録を実現
New COOLSHOT は、記録メディアにCF (コンパクトフラッシュ) カードを採用し、光学ファインダーも追加されているが、ボディーサイズは従来のCOOLSHOT (LK-RQ035ZZ)とほとんど変わらない。液晶モニター表示も従来よりスムーズで、実用上、さして不満のないレベルだ。オプションで着脱式フラッシュも用意され、その分、撮影領域も広がっている。

従来、同梱されていた充電電池パックやデジタルカメラステーションなどはすべて別売で、パッケージに付属しているのは、2MバイトのCFカードとPCカードアダプター、ストラップ、ケースだ。従来のCOOLSHOT は内蔵メモリー記録で、デジタルカメラステーションはシリアル転送に必須だったが、New COOLSHOT はCFカード記録なので、PCカードスロットを備えたパソコンならCFカードからデータを直接読み取れる。したがって、汎用の単3ニッケド電池あるいはニッケル水素充電電池を買い足すだけで済むわけだ。なお、シリアル転送を行うユーザーにはオールインワンモデル (79,800円) も用意されており、単品で買い集めるよりもお買い得だ。

レンズ	55mm相当
CCD	1/4インチ35万画素 プログレッシブスキャンCCD (原色フィルター)
記録メディア	コンパクトフラッシュ
最多記録枚数	85枚 (2MB)
サイズ、重量	91 × 60 × 31.5mm、約142g

試用レポート

①大きさは魅力だが近接撮影能力に不満
レンズは55mm相当(35mm換算)のパンフォーカスで、マクロポジションに切り換えると40cmまで近寄れる。ただし、マクロといってもB5サイズを画面いっぱいに撮影するのがやっとで、名刺を撮っても文字はまったく読み取れない。いわゆるメモカメラとして使うには不満が残る。

撮影モードは3種類で、画質優先のファインモードのみ640 × 480ピクセルで、ノーマルモードとデジタル2倍ズーム撮影モードでは320 × 240ピクセルで記録される。記録フォーマットはJPEGで、記録時間はファインモードで5~6秒だ。

従来機に比べると画質はかなり改善されてい



マクロといっても40cm程度までしか寄れないので、名刺を写しても文字はまったく読み取れない。



描写は少し甘いですが、従来機より色や階調はかなり良くなっている。

発売元	松下電器産業株式会社 / 松下寿電子株式会社
価格	本体54,800円 オールインワンモデル79,800円
問い合わせ	03-3834-2921
付属品	本体:コンパクトフラッシュアダプター、 コンパクトフラッシュカード(2Mバイト) ネックストラップ オールインワンモデル:本体付属品に、 AC電源・充電器キット、着脱式フラッシュ、 専用充電式ニッケド電池パック、 パソコン接続キットが付属。パソコン 接続キットには「転送ソフト」(Win、 Mac)やAdobe PhotoDeluxeを同梱
URL	http://www.mei.co.jp/corp/news/official_data/data.dir/jn971117-1/jn971117-1.html

て、シチュエーションによっては非常に色鮮やかに写る。ただし、天気が良いすぎるとハイライトが白飛びしやすく、描写も少々甘いのだが、ホームページ作成用途には十分な画質だろう。

(伊達淳一)



手のひらにスッポリ収まってしまふほどコンパクト。しかも高級感がある。



充電やシリアル転送は、カメラステーション(別売)に装着して行う。



マクロポジションで撮影しても、この程度のアップにしか写せない。

簡単に無線LANが構築できるワイヤレスLANアダプター WNS-230Wセット

Check!

シリアルポート接続で簡単に無線LANを構築
シリアルポートは230.4Kbpsまで対応
LocalTalk対応でマックでも利用可能

発売元	ソニー株式会社
価格	79,800円(2台1組) 増設用の WNS-230は39,800円(1台)
問い合わせ	03-5448-3311
付属品	RS-232Cケーブル、D-SUB25ピン 変換コネクタ、ACアダプター
URL	http://www.sony.co.jp/soj/CorporateInfo/News/199712/97-111/



前面は上から電源ランプ、電源ボタン、送受信インジケータ、受信レベルインジケータ、通信モード設定スイッチが並ぶ。

12月1日にソニーから発売されたワイヤレスLANアダプター「WNS-230W」は、シリアルポートでパソコンやTA、モデムとつないで簡単に無線LANを構築できる製品だ。家の中で複数のパソコンを使うのが当たり前になり、家庭内LANへのニーズは高まっている。しかし、設定

の難しさや配線の問題など家庭で使う際のハードルはまだ高い。そんな現状へのソニーの回答が、この「WNS-230W」だ。

WNS-230Wとは
WNS-230Wは無線LANアダプター2台からなり、それぞれをパソコンやTAなどのシリアルポートに接続し、その間を無線（通信速度は1Mビット/秒）で結ぶものだ。シリアルポートは230.4Kbpsまでの速度に対応し、128Kbpsのマルチリンク接続が可能なTAでも

問題なく使える。シリアルポートのデータは、無線LANのドラフト規格であるIEEE802.11に準拠した2.4GHzのスペクトラム直接拡散方式の電波で送られ、見通しのきく場所なら最大300メートルまで届く。もちろん無線通信は双方向だ。無線線は暗号化されてデータが送られるため、秘話性も確保されている。なお、暗号化などに独自の技術を使っている部分があるため、IEEE802.11に準拠している他の製品とは相互接続できない。

TAやモデムを共有する

WNS-230には、3つのモードがある。1つは「MODEM/TAモード」だ。このモードは、パソコンとTAやモデムを無線でつなぐもので、シリアルポートのデータがそのまま送受信できる。シリアルケーブルを無線で延長した格好だ。複数のパソコンやTA、モデムを切り替えて使うことができるため、「RS232切り替え器」の動きも持っている。もちろん、ワイヤレスLANアダプター本体は、接続したいパソコン、TA、モデムのそれぞれに1台ずつ必要だ。WNS-230Wは2台セットだが、増設用の「WNS-230」（¥39,000）は1台だけで販売されているので、必要に応じて増設できる。1つのグループに、パソコンは最大で32台まで、TAとモデムは3台まで接続できる。

TCP/IP ネットワーク

3つのモードの2番目が「PPPモード」。このモードのときは、すべてのワイヤレスLANアダプター（WNS-230）がPPP接続をサポートするサーバーのように働く。いったん、パソコンからWNS-230へダイヤルアップ接続する（後述）と、無線LAN接続された状態になる。ウィンドウズ95のマイクロソフトネットワーク機能を使ってファイルやプリンターを共有したり、FTPなどのTCP/IPベースのアプリケーションを利用したりできる。なお、「MODEM/TAモード」との切り替えは背面のディップスイッチで行う。

LocalTalk 接続も

また、マックユーザーには「LocalTalkモード」が用意されている。LocalTalkを無線で延長できるようになり、離れた場所のマックintoshもLocalTalkが利用できるようになる。当然だが、ウィンドウズマシンとのファイル共有などはサポートされない。

試用レポート

①「MODEM/TAモード」でTAを接続

まず、MODEM/TAモードでNECのAterm IT55をつないでインターネット接続を試みた。

設定は、シリアルポートとTAが直接つながっている場合とまったく同じで、64Kbpsと128Kbpsでの接続をそれぞれテストした。高速シリアルボードはアイ・オー・データ機器のRSA-DV /Sを使い、DTE速度は230.4Kbpsに設定した。TAを直接シリアルポートに接続した場合とWNS-230を経由する場合とで、FTPやウェブアクセスの速度を比較してみたが、体感的にも違いはなく、実際のFTP速度もまったくいいほど変わらない。MODEM/TAモードでの使用感はきわめて快適だった。

②ファイル共有はやや遅い

次に、「PPPモード」で2台のウィンドウズマシンを115.2Kbpsで無線LAN接続してみた。

「標準28800bpsモデム」をインストールし、ダイヤルアップネットワークで「新しい接続」を作成する。電話番号に「00」と入れると、WNS-230を使った無線LANでTCP/IPネットワークに接続できる仕組みだ。2台のマシンで同様の設定を行い、WNS-230へのダイヤルアップ接続を行う。「スタートボタン」から「検索」「他のコンピュータ」で検索すると、無線LANでつながったマシンがネットワーク越しに見えるようになった。

接続できた状態で、LANとしての速度を測ってみた。まず、MS-DOSプロンプトでCOPYコマンドを使って相手のマシンにファイルをコピーする速度を5回測定し、平均した。テストに使ったのは500Kバイトのテキストファイルとバイナリーファイルだ。テキストファイルが98.6秒、バイナリーファイルが133.2秒で、それぞれ約5.1Kバイト/秒、約3.8Kバイト/秒となった。115.2Kbpsでの接続にしてはやや遅いが、これはcopyコマンドによる処理がネットワーク向きではないのが原因であろう。ただ、エクスプローラを使ったファイルのコピーでも似たような数値なので、マイクロソフトネットワークの機能を使ったファイルやプリンターの共有では、あまり大きなファイルを扱うのは無理そうだ。試しに、ネットワーク越しにいつも使っているテキストエディタを起動してみたら、画面が表れるまでに10分余りもかかってしまった。もちろん、小さなデータファイルを扱うだけなら問題ない。

そもそも、シリアルポートを使ったLANなのだから、速度を期待できないのはやむをえないことだ。その点を理解して使うようにしたい。

③対向FTP速度は悪くない

次に、片方のマシンにフリーのFTPサーバーであるwar-ftpdをインストールし、もう1台のマシンでFTPコマンドを使ってデータ転送速度を測った。ファイルのコピーテストと同様の500Kバイトのテキストファイルとバイナリーファイルだ。この結果では、アップロード、ダウンロードとも約10.6Kバイト/秒という値が得られた。115.2Kbpsでの理論的な限界は11.5Kバイト/秒だからかなり良い値だ。大きなファイルをコピーする際は、ファイル共有を使わずにFTPを使ったほうが圧倒的に速い。もちろん、双方のパソコンに高速シリアルボードを付けるなどしてシリアルポートの速度を230.4Kbpsにすれば速度は倍になる。

④電波の届く範囲は？

電波の届く範囲を調べてみた。鉄筋コンクリートのマンションの1階で、各部屋ではもちろん問題なし。玄関の扉を閉めた状態で室内に1台を置き、外の廊下にあるコンセントでもう1台を動かして試したところ、玄関から15メートル離れた場所でも電波が届き、30メートルほど離れた場所でもつながらなくなった。閉め切った室内と屋外で30メートルまで届いたわけだ。仕様では、見通せる範囲で300メートルというのが目安だから、この程度電波が届けばまったく問題ないだろう。

⑤プロキシサーバーソフトとの組み合わせ

WNS-230のいちばんよい使い方は「MODEM/TAモード」だろう。単純に、シリアルポートの無線延長&切り替えアダプターとして使うのなら簡単だし、まったく問題も生じない。一方、「PPPモード」でのファイル共有はその限界を考慮して使う必要がある。所詮はシリアルポート接続の速度なのだ。ただ、こんな使い方も考えられる。Proxy97やWinGateのような複数のマシンでインターネットを利用できるソフトを併用するのだ。こうすれば、無線LAN接続したマシンで、同時にインターネットが利用できる。速度の問題も、ISDNを使って64Kbpsや128Kbpsでの接続なら、あまり問題にならないだろう。

(梅垣まさひろ)



背面。上から動作モード設定ディップスイッチ、マック用シリアルコネクタ、ウィンドウズ用シリアルコネクタ。

テスト環境

ハードウェア
ウィンドウズマシン1...ペンティアムPro 180MHz + メモリー 64Mバイト
ウィンドウズマシン2...DELL Optiplex466/LV + メモリー 40Mバイト
TA : Aterm IT55/DSUと高速シリアルボード RSA-DV /Sで接続、DTE速度は230.4Kbps

テスト条件

COPYによるテストでは、マシン1上のMS-DOSプロンプトでCOPYコマンドにより測定。FTP測定では、マシン1でwar-ftpdを動かし、マシン2のFTPコマンドによりファイルを転送した。転送に使ったファイルは、500Kバイトのテキストファイルとバイナリーファイルで、それぞれのファイルをLHAで圧縮すると、42.1%、98.9%に圧縮される。バイナリーファイルのほうは転送時にデータ圧縮が使われても、圧縮効果が期待できない。

アナログ機能も充実したDSU内蔵ターミナルアダプター DN-TA1

Check!

付属ユーティリティで簡単セットアップ 内蔵DSUは切り離し可能 アナログ通話機能も充実

発売元	シャープ株式会社
価格	46,800円
問い合わせ	0120-078178
付属品	RS-232Cケーブル、D-SUB25ピン 変換コネクタ、ISDNケーブル、ス タンド型電池ケース
URL	http://www.sharp.co.jp/sc/eihon/dn-ta1/text/ index.html



大き目の縦置きスタンドは停電対策用のバッテリーバックになっている。

DN-TA1はシャープが発売したターミナルアダプター(TA)だ。価格は46,800円で、アナログ2ポート、S/T端子の搭載と、最近の同価格帯のTAと比べても、スペック的には何ら遜色のない製品に仕上がっている。液晶ディスプレイは搭載していないが、表示ランプの文字が日本語なので、通信状態は把握しやすくなっている。

内蔵DSUは切り離しも可能

DN-TA1はISDNと通信機器を接続するターミナルアダプターで、128Kbps(MP)での接続はもちろん、PIAFSやデジタル専用線もサポートしている。フラッシュROMを搭載しているので、ファームウェアのバージョンアップも簡単だ。本体底面には、リセットスイッチや終端抵抗スイッチ、極性反転スイッチがある。DSUスイッチも用意され、DSUが不要な場合はDSU機能を切り離すこともできる。

疑似フレックスホンなどの定番アナログ機能はサポート

DN-TA1はアナログポートを2つ搭載しており、アナログ通話機能も豊富な。NTTのダイヤルインサービス(有料)を申し込みれば1つの回線で複数の電話番号を持つことができるので、アナログポートに接続された電話機やファックス(モデム)などの通信機器ごとに、異なる電話番

号を使い分けられるようになる。また、サブアドレス通知サービス(無料)を利用すれば、電話番号のあとにサブアドレスを入れることで外部から特定の通信機器を呼び出せるようになる。

疑似フレックスホンや疑似着信転送機能もサポートしているので、空いているチャンネルを使ってキャッチホンや着信転送を使うこともできる。

発信者別識別着信表示機能を使えば、最大32か所まであらかじめ登録した特定の相手からの電話に対して、電話機のベルの鳴り方を変えたり、DN-TA1の通話ランプの点滅の仕方を変えて通知させることもできる。

ダイヤルイン・ダイヤルアウト(中継電話)機能を使えば、外からDN-TA1経由で通話ができるので、外出先のPHSや公衆電話からDN-TA1経由で電話をかけることができるようになり、中継するDN-TA1から先はISDNの通話料金が課金される。

DN-TA1は、ウィンドウズNTのRASサービス(リモートアクセスサービス)が簡単に設定できるユーティリティが付属している。ウィンドウズ95でリモートアクセスサービスを使う場合はMicrosoft Plus! for Windows95が必要だ。

停電対策もOK!

写真を見てもらえば分かるだろうが、DN-TA1は本体のサイズに比べて縦置きスタンドが大きい。これは、縦置きスタンド自体が停電対策用のバッテリーバックになっていて、この中に単3アルカリ電池6本を入れられる。バッテリーバックが不要なら本体だけのサイズになるのでコンパクトだが、停電対策を施していないと停電時にアナログポートに接続された電話機も使えなくなってしまう。電話はライフラインとしても重要なので、災害時などの「万が一」に備える意味でも停電対策には気を配ったほうがいい。

試用レポート

①「セットアップナビゲータ」で初めてでも簡単セットアップ!

設定は、ウィンドウズの「コントロールパネル」からドライバーをインストールすることもできるが、付属ユーティリティの「セットアップナビゲータ」を使うと簡単だ。「セットアップナビゲータ」を起動し、指示に従って質問されることに答えていくと設定が終了する。設定内容はTA本体にも送られて設定が保存される。実際に、RS-232Cケーブルでコンピュータと接続してから5分もかからないで設定が終わった。また、アナログポートに接続されたアナログ電話機のプッシュ信号での設定も可能だ。付属マニュアルにコマンド一覧が掲載されているので、それを見ながら電話機で設定が変更できる。

②スループットBODとリソースBODを搭載

2チャンネル使った128Kbps通信では、通信

データ量によってチャンネル数を切り替える「スループットBOD」機能や、128Kbps(2チャンネル)で通信中に電話機などの発信や着信があった場合に、通信を自動的に1チャンネル落として電話やファックスなどを優先させる「リソースBOD」機能を搭載している。回線数増減タイミングの設定は3つまで保存できるので、INSテレホーダイ用や市外のアクセスポイント用などに設定して使い分けられるのは便利だ。

③基本性能はまとまっている

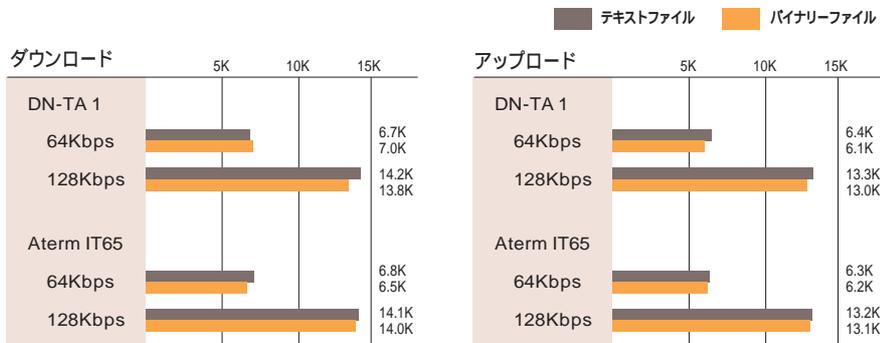
DN-TA1は、アナログまわりの機能も通信機能もすつなくまとめられているので、これからISDNを導入する初心者にもおすすめできる。最近の他社のTAに見られるように、アナログポートが3つあれば、電話機やファックス機などの使い分けの幅が広がるだろう。TAに1点豪華主義は求めないが、DN-TA1として前面に打ち出せる機能が特にないの、製品自体がまとまり良く仕上がっているだけに惜しい気がする。

(編集部)

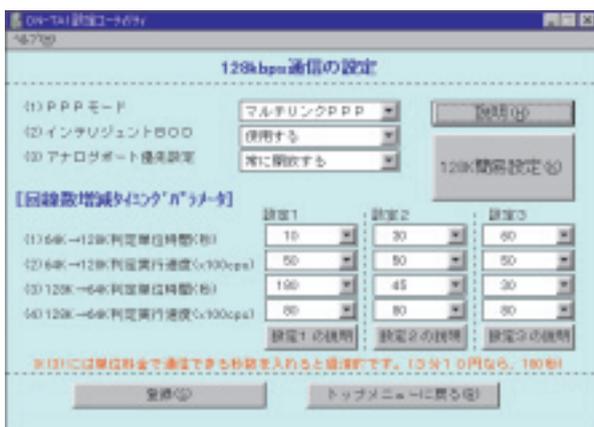


背面。上から、アナログポート2つ、RS-232Cポート、S/T端子、ISDNポート、アース。左は電源スイッチとスタンド型電池ケース接続端子。

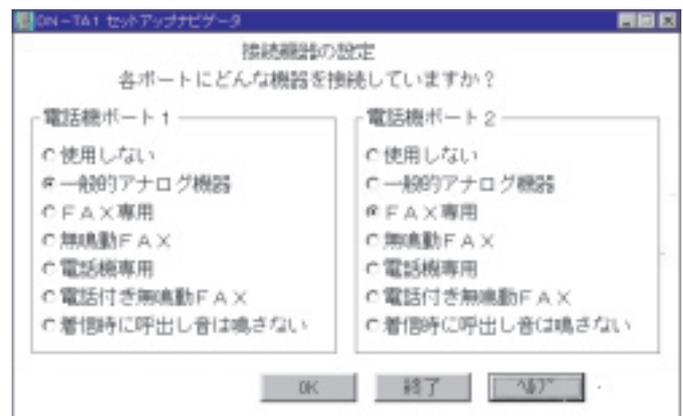
FTPによるファイル転送速度(バイト/秒)



ウィンドウズNTのRASサーバーにダイヤルアップ接続して実験した。高速シリアルボードはアイ・オー・データ機器のRSA-DV II/Sを使用。クライアントマシンはペンティアム133MHzのCPUと32Mバイトのメモリーを搭載したウィンドウズ95マシン。転送に使用したファイルは500バイトのテキストデータと500バイトのバイナリファイル。5回ずつ転送してその平均値をとった。



設定ユーティリティの128Kbps通信の設定画面。



「セットアップナビゲータ」でアナログポートに接続する通信機器の設定が簡単にできる。

デジタル携帯電話でネットサーフィンができるカーナビ インフォメーションナビ システム NVX-FW8

Check!

カーナビでネットサーフィンができる
接続速度はデジタル携帯電話の9,600bps
ソフトウェアキーボードが使いにくい

発売元	ソニー株式会社
価格	260,000円
問い合わせ	03-5448-3311
付属品	ダイバーシティTVアンテナ、ワイヤレスリモコン、モニタースタンド、地図CD-ROM
URL	http://www.sony.co.jp/ProductsPark/consumer/CAR-AV/NVX-FW8.html



7型ワイド液晶モニター（左）本体（中央上）、テレビチューナーハイダウェイユニット（中央）、リモコン（中央左）、GPSユニット（中央下）地図CD-ROM（右）



インターネットの設定画面。必要事項を入力する。

インターネット対応のカーナビが登場した。最大9,600bpsながらインターネットにアクセスできるので、ドライブ中にインターネットに接続して、レストラン情報や天気予報などの情報をチェックすることができる。マイカーを「インターネットカー」にする

インターネット対応カーナビとは、どのような製品だろうか。

インターネットへのアクセスは必ず車を停めてから！

ソニーが発売したカーナビゲーションシステム「インフォメーションナビシステム NVX-FW8」は、通常のカーナビにインターネットユニットとデジタル携帯電話を接続してインターネットにアクセスするものだ。カーナビのGPSなどは

インターネットには使用せず、インターネットの部分はデジタル携帯電話と接続されたインターネットユニットを使って利用する。カーナビとインターネットの合体といっても、何か新たなサービスが開始されたわけではなく、通常はカーナビとして利用し、必要があるときにはインターネットからも情報を得ることができるというものだ。なお、マニュアルにも繰り返し書いてあるが、インターネットに接続するときは必ず車を停めてから利用しよう。

カーナビとしての機能は充実

カーナビとしての機能も充実している。音声認識機能は、使用者の声をあらかじめ登録する必要がない不特定話者認証方式を採用し、駅名や施設名を声にするだけで目的地を呼び出すことができるものだ。また、VICSユニットを内蔵するため、交通情報やFM文字多重放送も受信できる。最近のカーナビの例にもれず、必要な機能は備えられている。

試用レポート

① インターネットのダイヤルアップ接続を設定

インターネットを利用するには、アクセスポイントの電話番号、ユーザーID、パスワード、ネームサーバーのアドレスなどを設定し、デジタル携帯電話をケーブルで接続すればOKだ。接続するには情報メニュー画面で「インターネット」をクリックすればダイヤルアップを始める。パソコンのダイヤルアップ接続の設定をしたことがあれば、簡単に設定できるレベルだ。なお電子メールは使用できない。

独自のWWWブラウザ「CyberBlade」はフレームに対応していないので、フレームが使われているページにアクセスするとフレームごとに分けて表示される。またイメージデータを表示せずに、テキストだけを表示させることもできる。9,600bpsという接続速度を考えると、こちらのほうが実用的だ。

モニターサイズはQVGA（クォーターVGA）で、一般的なウェブコンテンツを表示するには画面が小さすぎる。イメージデータも表示する設定で一般のウェブサイトにはアクセスすると、ページタイトルのイメージで画面がいっぱいになった。このような小さなモニターの携帯情報端末用に、QVGA用のコンテンツを普及させようという動きがあり、QVGA用に作られたMobileLinkのウェブサイト（<http://www.mobilelink.or.jp/>）なら、まったく問題がない。MobileLinkには、地域ごとにレストラン情報やエンターテインメント、カーショップやホテルなどの情報が掲載されているので、ドライブ中に必要な情報はここからチェックできる。

② ソフトウェアキーボードに工夫がほしい

URLなどの入力は、リモコンで画面のソフト

ウェアキーボードを利用して行う。パソコンのキーボードに慣れている人にとっては操作性がかなり悪い。アクセス頻度の高いページは必ずブックマークしておこう。モニターをタッチパネルにすると、インターネットテレビのように「www」や「co.jp」などの文字列を1つのボタンにするなどの工夫がほしかった。

③ PIASFのサポートを

デジタル携帯電話によるインターネット接続は最高9,600bpsまでなので、表示速度が遅く、どうしてもストレスを感じてしまう。デジタル携帯電話をPIASFと比べたときの長所は移動中の通信にも強いことだが、この製品では移動中のインターネット利用はやめるように指示している。インターネットは車を停めて利用するものとするのならば、デジタル携帯電話だけでなく、PIASFもサポートしてほしい。

④ カーナビとインターネットがリンクした新サービスを！

本製品では、カーナビ部分とインターネットのサービスが完全に分離されているが、せっかくなら、モニターの地図上の目的地（例えばテーマパークなど）をクリックするとそのホームページが現れて情報が得られるといったように、地図とインターネットがリンクするような機能が欲しかった。また電子メール機能も必須だろう。

カーナビとして使うには十分な機能を搭載している。ただし、現状ではカーナビとインターネットの機能が連動していないので、ノートパソコン+PHSのほうがインターネット端末としては当然優れている。インターネット機能を持つカーナビとしては、位置情報とインターネットの連動についてこれから新たな技術やサービスが登場することに期待したい。（編集部）



URLの入力などはソフトウェアキーボードで行う。



下の写真のページを800×600の画面で表示したインプレスのホームページ。

URL <http://www.impress.co.jp/>



QVGA用に作られたMobileLinkのページ。



QVGA用でないウェブサイトにはアクセスすると、小さい画面には収まりきらない。

スマートメディア採用の3倍AFのデジタルカメラ DC-3Z

Check!

記録メディアに3.3V/5Vのスマートメディアを採用
レンズ前1cmの超ウルトラクローズアップが可能
液晶モニターを閉じるとフルフラットなボディ

発売元	株式会社リコー
価格	68,800円 シリアルケーブル3,500円(Win, Mac) 専用ソフト「DU-3」4,000円(Win, Mac)
問い合わせ	03-5479-2937
付属品	スマートメディア(4Mバイト) ビデオケーブル、単3アルカリ電池4本
URL	http://www.ricoh.co.jp/dc/dc3z/

パツと見た目は従来のDC-3にそっくり。3倍AFでズームとスマートメディアを採用しているのだから驚きた。



リコー伝統のボディで、液晶モニターの開閉に連動して電源がオン・オフする。



ワイド端ではレンズ前1cmの近接撮影が可能。ただし、カメラが陰になってしまうので実際には3cm程度で撮影している。



色はそれほど鮮やかではないが、非常にシャープネスは高い。背景のコントラストが高いとピンぼけしやすい感じた。

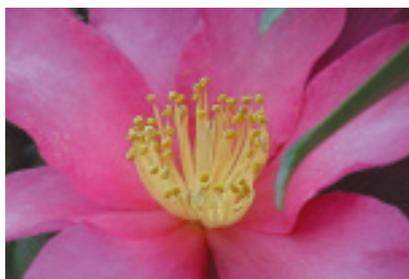
リコーDC-3Zは、45～135mm相当の3倍AFズームを搭載した35万画素クラスのデジタルカメラだ。記録メディアはスマートメディアで、3.3Vと5Vの両タイプに対応している。内蔵メモリー記録のリコーDC-3に比べて2mmほど厚みが増したものの、3倍AFズームとメモリーカード

記録を実現。レンズ前1cmの超クローズアップ撮影も健在だ。

テレ側にシフトした3倍AFズーム

リコーDC-3Zは、内蔵メモリー記録モデルのDC-3とほとんど同じボディデザインだが、レンズは3倍AFズームに、記録メディアはスマートメディアへと強化されている。ただし、ワイド端の画角は45mm相当(35mm換算)と狭いため、室内や建築物の撮影には少々キツそうだ。富士フィルムのDS-30は32～96mm相当とワイド側にシフトしており、同じ3倍AFズーム搭載の35万画素クラスのデジカメといっても好対照な存在だ。

また、フジDS-30は小型化とバッテリー持続



このような色が偏った被写体の場合、マニュアルでホワイトバランスをセットすれば、色バランスが崩れない。

時間確保のために、専用の充電電池の採用に踏み切ったが、リコーDC-3Zは従来どおり単3型アルカリ電池4本で汎用の乾電池のままだ。このあたりの両社の選択も評価が分かれるところだ。

試用レポート

①手ブレを防ぐにはSモードが効果的
DC-3ZのCCDは、DC-3と同じ1/4インチ35万正方形画素CCDで、基本的な画質もほぼDC-3と同等で、あっさりとした色再現でシャープな描写だ。ただし、レンズが中望遠ズームになったことで手ブレしやすくなっていて、シャッタースピードがテレ端で1/250秒、ワイド端で1/60秒を切ると、液晶モニターに手ブレ警告が表示される。屋外でもちょっと陽がかけると、テレ側では手ブレ警告が出てしまうのだ。

そこで、リコーDC-3Zには、暗いときにシャッタースピードを速くするSモードが備わっていて、Sモードに切り替えるとCCDからの信号を増感し、2段速いシャッタースピードが切れる。多少ノイズが増えて画質は悪くなるが、手ブレを防ぐのには効果的だ。

ワイド端ではレンズ前1cmの超クローズアップ撮影も可能で、AFでピント合わせができるので快適だ。ちなみにテレ端で近寄れるのは20cmまで。また、スマートメディアに記録された画像はExif準拠のJPEGフォーマットなので、フジFD-1デジタルカメラプリントサービスも受けられる。なお、記録時間は5～6秒と平均的なレベルだ。
(伊達淳一)

レンズ	45～135mm相当
CCD	1/4インチ35万正方形画素 プログレッシブスキャンCCD (原色フィルター)
記録メディア	SmartMedia
最多記録枚数	99枚(4MB)
サイズ、重量	125.8×36×72.6mm、約260g



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp